

101-344

問題文

7歳女児。近医の皮膚科にてアトピー性皮膚炎と診断され、母親が以下の処方箋を保険薬局に持参した。

(処方1)

タクロリムス軟膏 0.03%小児用 20 g
1 回適量 1 日 2 回 (朝就寝前) 顔、頸部に塗布

(処方2)

ベタメタゾン吉草酸エステルクリーム 0.12% 20 g
1 回適量 1 日 2 回 (朝就寝前) 体幹、腕に塗布

(処方3)

ヘパリン類似物質クリーム 0.3% 100 g
1 回適量 1 日 2 回 (朝就寝前) 顔、頸部、体幹、腕に塗布

(処方4)

フェキソフェナジン塩酸塩錠 30 mg 1 回 1 錠 (1 日 2 錠)
1 日 2 回 朝食後就寝前 14 日分

薬剤師が母親に服薬指導する内容として、適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. タクロリムス軟膏は、傷やただれているところに使用して下さい。
2. ベタメタゾン吉草酸エステルクリームは、症状が改善されても自己判断で中止しないで下さい。
3. ヘパリン類似物質クリームは、皮膚の保湿効果があります。
4. ヘパリン類似物質クリームは、傷やただれがあるところに塗らないで下さい。
5. フェキソフェナジン塩酸塩は、眠気を起こしにくい薬です。

解答

1

解説

選択肢 1 ですが

タクロリムス軟膏は外用の免疫抑制剤です。傷やただれがある部分は感染の危険が高まるため、タクロリムス軟膏を使用する部位としては不適切です。

他の選択肢は、正しい選択肢です。

選択肢 2 についての補足ですが

ステロイドは、適切に使用し続けることが大切であり、中止の判断は医師が行います。

選択肢 4 に関して

ヘパリン類似クリームは、傷が治っている途中には使ってはいけません。血行促進作用により傷自体が治ることを阻害するおそれがあるためです。

以上より、正解は 1 です。